

杏林アイバンク



明石 優美
杏林アイバンク

アイバンク
スタッフの
ある一日



杏林アイバンクは、故樋田哲夫眼科教授のもと、院内をはじめ西東京地区をカバーするアイバンクとして平成13年に設立されました。他のバンクと比べると非常に規模の小さなアイバンクではありますが、今年度から院内の移植医療体制が変わったのを期に、コーディネーターが置かれ、更なる体制整備に日々邁進しているところです。

杏林大学病院には、アイバンクの他にもスキンバンク・骨バンクがあり、組織移植の分野でも積極的に活動を行っております。これらのバンクを統括しているのが私の所属する「臓器・組織移植センター」であり、これまでアイバンクは独立した組織であったのを移植センター内に構える事でもよりスムーズに提供・移植が行われるようになりました。

杏林アイバンクには専属コーディネーターはおらず、組織移植コーディネーターが兼務という形で対

応を行ってまいりました。私は主にスキンバンクで「組織移植コーディネーター」として7年勤務しております。スキンバンクといっても、皮膚だけではなく、多組織（心臓弁や血管、骨等）のコーディネーションも行いつつ、院内コーディネーターとしても業務を行っております。

これまでの経験を活かし、ドネーションはもとより事務手続きや角膜移植、角膜切片の作成等、他バンクの方々にも多くの事を教えて頂きながら勉強中です。

これまで、組織移植コーディネーターとして全国の組織提供に対応しており、東京都以外でも組織提供と一緒に角膜提供の承諾を取らせて頂くことがありました。

臓器提供・組織提供と一緒に対応させて頂く中での経験に記載させて頂こうと思います。

ある病院（関東地区）から組織提供の可能性があるということで第一報が入ったのは、早朝のこと

でした。提供病院までは数時間かかる少々遠方の場所、ということもあり急いで準備を行い大きな摘出セットと共に車で出発しました。その道中、角膜提供の可能性もあると判断し、主治医の先生にその旨をお伝えしました。するとご家族からは「何でも提供したい」とのご意志があるとのこと、その連絡のあとすぐにアイバンクへ第一報を入れました。

組織提供と一緒に角膜提供の可能性がある場合には、通常各県のアイバンクスタッフの方々へ連絡をさせて頂き、承諾書の作成代行について、検査データの共有、採血について、摘出医の派遣、摘出時間等の調整を行い提供病院に入ります。その日も同じように最低限の確認だけを急いで行い、提供病院に向かっていました。しかしながら、丁度通勤時間と重なり道を選びつつも渋滞の為、お伝えしていた時間を超えての到着となりました。ご家族と提供病

院の先生方にお待たせしてしまっただ事を謝罪し、最低限の医学的適応を確認してからすぐにご家族へインフォームド・コンセントを開始致しました。

生前から提供についてご家族にお話されていた事もあったとのこととお話を伺い、ご家族全員でしっかりと説明を聞いておられる印象でした。あまりの気丈さに心配する気持ちもありましたが、できるだけお気持ちを話し頂けるように（話しやすい環境を作る）注意しながら30分のインフォームド・コンセントを終えました。その中で伺えたのは、「生前話していたとはいえ、主治医の先生から提供について言ってもらえなかったら思い出さなかった」、「家族が亡くなってからもろん悲しいが提供することで何か違う気持ちが芽生えている」、「提供をすることで、死というのに向かいあえている気がする」ということでした。私は、ひとつひとつのお話に耳を傾けな

がら、最初にご挨拶をさせて頂いた30分前の様子とどこか違う表情で（気丈さが薄れ、涙をこらえている様子）お話し頂いている事を感じました。最終的に、角膜と組織（皮膚）のご承諾を頂き、摘出が終了するまでご家族はご自宅に戻られることとなりました。

その後、院内調整等を行い、摘出医の到着時間の関係で角膜・皮膚の順番で摘出を行うこととしました。注意点として、皮膚提供の際に伏臥位から仰臥位へと体位交換を行う為、眼からの出血がないようにお顔の保護に気を遣います。この時には眼からの出血が少しあり、皮膚提供が終わるまで眼科の先生に残って頂くことができ、止血を含め最後まで対応して頂きました。

全てが終了し、ご家族が深々と頭を下げられ「ありがとうございました」という言葉を頂き、大変恐縮した気持ちでご出棺に立ち会わせて頂きました。提供病院を辞

去する時はいつも、提供された角膜が移植される患者様の光となる事を願って帰路につきます。

このように、アイバンクスタッフの皆様とスムーズなやり取りをさせて頂く中でその役割は非常に大きく、今後は自分もアイバンクの一員として役割を担っていくことにプレッシャーを感じることもあります。全ては患者さまの為に、今後も努力していきたいと思

います。最後に、杏林アイバンク以外にも摘出の際一緒にさせて頂いた先生方やスタッフの皆様、またアイバンク協会役員の先生方、多くの方にご助力を頂きながら活動を進めております。この場をお借りして感謝申し上げるとともに、今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。



SERIAL COLUMN